

片山利弘

領域を越える造形の世界

Toshihiro Katayama: Transcending Spatial Arts

2021年4月5日[月]–6月20日[日] 武蔵野美術大学美術館 展示室 3

休館日 | 日曜日 ※ただし、6月13日[日]、20日[日]は特別開館/時間 | 10時–18時(土曜、祝日、特別開館日は17時閉館)/入館料 | 無料

主催 | 武蔵野美術大学 美術館・図書館/協力 | 片山渥美、片山哲夫、南天子画廊/監修 | 新島実(武蔵野美術大学名誉教授) ※都合により会期等が変更になる場合があります。

MAUM&L

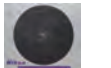
1. コラージュ《Blue Star》1964年/2. 壁面レリーフ(総映)《三井住友海上千葉ニュータウンセンター》1994年/3. キャンパス《三思の門》1989年/4. 銅板レリーフ壁画《さあ、鳥たちよ・・・》[T本社ビル]1995年/5. ドローイング《Homage to Triangle》1981年頃/6. ドローイング《Untitled(Bird Series)》1998年/7. シルクスクリーン《Up or Down》1975年/8. 大理石フロアデザイン[新宿 NS ビル]1982年/9. レリーフ彫刻《正方形へ、光と石の対話》[大原美術館本館](片山利弘・作、和泉正敏・協力)1991年 撮影 | 三本松淳(no.1–8)、佐治康生(no.9)

戦後日本のデザイン創成期に主導的役割を果たし、後に制作の場を海外に求め、スイス、そしてアメリカに渡った片山利弘(1928-2013)。

デザイン、絵画、彫刻はもとより、巨大な建築空間での立体表現と、その生涯にわたり造形領域の枠組みにとらわれず国際的に活躍した片山の全貌を紹介するのは初めての展覧会となります。

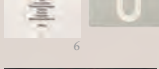
本展では、「日本(大阪/東京)」「スイス(バーゼル・ガイギー社)」「アメリカ(ボストン・ハーバード大学)」「領域を越えた活動」と年代順に辿り、1950年代初頭から2000年代までの作品を一堂に集め、稀有な造形作家のグローバルな活動の軌跡とその多彩な表現展開を紐解きます。

- 1928 [0歳]
 - 大阪で生まれる
- 1952 [24歳]
 - 「第20回毎日商業美術振興運動(現・毎日広告デザイン賞)」の〈新聞広告の部〉において、新聞広告「サンヨーラジオ」で通産大臣賞を受賞
 - 同賞(ポスターの部)で技能賞を受賞した木村恒久と出会う
- 1953 [25歳]
 - 「第3回日宣美展」(銀座松坂屋・東京)に招待作家として出品
 - 木村恒久、田中一光、永井一正ら21名とデザインの研究会「aクラブ」結成
 - レストラン エトワール(大阪)の内装デザインを手がける(現存せず)
 - 日本宣伝美術会会員となる
- 1959 [31歳]
 - 亀倉雄策の発案で結成された若手デザイナーの勉強会「グラフィック21の会」に参加
- 1960 [32歳]
 - 東京に転居
 - 日本デザインセンターの創立メンバーの一人として参加(1963年まで)
 - 東京芝浦電気株式会社(現・東芝)・日本光学工業株式会社(現・ニコン)・富士製鐵株式会社などのデザインを担当
 - 染沢デザイン研究所の非常勤教員となる(1963年まで)
- 1961 [33歳]
 - 「Who's Who In Graphic Art」に掲載される
- 1962 [34歳]
 - 「第5回日本雑誌広告賞」の〈第2部〉機械・器具部門において、雑誌広告「ニコレックス8/ニコンF」で第1位を受賞



日本からスイス・バーゼルへ

- 1963 [35歳]
 - ガイギー社の招聘を受け、アートディレクターとしてスイスのバーゼル市に滞在(1966年まで)
- 1964 [36歳]
 - 国際デザイン会議(ICOGRADA)第1回総会(チューリッヒ・スイス)に出席
 - スイスのデザイン雑誌「Graphis」114号に小特集で取り上げられる
- 1965 [37歳]
 - 最初の個展(Herman Miller Ausstellungsraum・バーゼル・スイス)
 - (Visual Construction)と名付けたカラーージュ作品シリーズによる個展を5回、スイスのバーゼル、チューリッヒ、ベルン、ジュネーブ、ウィンターツールで開催
 - フランスのロンジヤンにあるル・コルビュジェ設計のノートルダム・デュ・オー・礼拝堂へ友人を案内した帰り道、Mary Patricia Sekler と出会う
 - 夫で建築家Eduard Franz Sekler はハーバード大学カーペンター視覚芸術センター(以下、CCVA)の初代所長で、この時の出会いにより、後にアメリカに渡ることになる
 - 「グラフィックデザイン展(Persona/ベルツナ)」(銀座松屋・東京)にスイスより出品

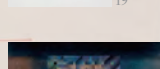
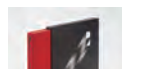


スイス・バーゼルからアメリカ・ボストンへ

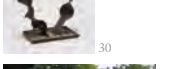
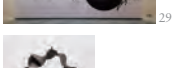
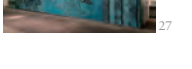
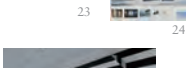
- 1966 [38歳]
 - 「Graphis」124号の表紙を飾る
 - ハーバード大学CCVAからの招聘を受け、教育とデザインを担当するため、アメリカのボストン市に移住
 - 以後、約30年にわたって同大学デザイン研究科の学生を指導(1995年まで)
 - CCVAはカーペンター視覚芸術センター(Carpenter Center for the Visual Arts)の略で、ル・コルビュジェによる米国および北アメリカ大陸で唯一の建築作品
- 1967 [39歳]
 - Harvard Summer Schoolで最初のコース「Graphic Design」を開く
- 1968 [40歳]
 - AIGA(アメリカ・グラフィックアート協会)の招待による個展を開催(AIGAギャラリー・ニューヨーク・アメリカ)



- 1970 [42歳]
 - 個展「ギャラリー PLAZA DIC・東京」(Square+Movement/観客参加の可変性絵画)を発表
- 1971 [43歳]
 - AGI(国際グラフィック連盟)入会
- 1974 [46歳]
 - 詩人Octavio Pazと共著 動く詩画集「3 Notations/Rotations」3部作をハーバード大学より出版
- 1975 [47歳]
 - 個展「ギャラリーエステル・東京」(Topology)シリーズを発表
 - ボストン地下鉄State Street駅に(Art as Sign)の一例として壁画を制作
- 1978 [50歳]
 - 個展(南天子画廊・東京)
 - 以後、同画廊にて1980年、1983年、1986年、1989年、1996年に個展を開催
- 1981 [53歳]
 - 「片山利弘作品集:Visual Construction, Square+Movement, Topology:Homage to the Cube」を株式会社鹿島出版会より出版、出版記念展(草月会館・東京)を開催
- 1982 [54歳]
 - 新宿NSビル(東京)に白大理石と黒大理石の約9,300枚によるフロアパターンをデザイン(制作協力:杉本貴志)
 - 以降、日本国内の建築家らとのコミッションワークを数多く取り組む
 - 赤坂プリンスホテル(東京)の大宴会場にステンレスチール製の壁画彫刻(Homage to the Crystal)を制作(現存せず)
- 1985 [57歳]
 - ボストン地下鉄 Alewife 駅にステンレスチール製のサイン彫刻を制作
 - この頃から鳥をテーマとした西武美術館の12枚綴りカレンダーを制作
 - 鳥の飛びさまの変化が楽しめる「可変性」を強調した作品となる
- 1986 [58歳]
 - ヴァンテンアン設立展として、建築をテーマとしたドローイングによる個展を開催(南天子画廊・東京)
- 1987 [59歳]
 - 日比谷シャンテ(東京)の「合歡の広場」フロアと地域道路のアーバン・グラフィックとCafe/地下駐車場への通路+噴水の一体化によるデザインを手がける(現存せず)
- 1988 [60歳]
 - ソニックシティホール(埼玉)の大ホールに648色の糸で織り上げた繊細織の織機「都市と自然の調和」をデザイン(制作:住江織物株式会社)
- 1990 [62歳]
 - ハーバード大学 CCVA のディレクターとなる(1995年まで)
- 1991 [63歳]
 - 大原美術館本館(倉敷)に石壁と石のレリーフ彫刻「正方形へ、光と石の対話」を制作(制作協力:和泉正敏)



- 1992 [64歳]
 - 松下電器産業情報通信システムセンター(東京)に石壁、床、噴水などの石によるロビーをデザインし、スチール製の彫刻「未知への門」を制作(制作協力:石壁)和泉正敏(現存せず)
- 1993 [65歳]
 - 「ハーバード大学視覚芸術センター片山利弘教室:4-8カ月間のグラフィックデザイン演習」を武蔵野美術大学短期大学部通信教育部より出版
- 1994 [66歳]
 - 個展「第96回企画展:片山利弘展」(ギンザ・グラフィック・ギャラリー・東京)
 - 建築空間での仕事とカレンダー(セゾン美術館)の仕事に加えてハーバード大学片山教室の学生作品を展示
 - 三井住友海上千葉ニュータウンセンター(千葉)の壁画(窓象)と石の彫刻「水龍」を制作(制作協力:和泉正敏)
- 1995 [67歳]
 - 「JT本社ビル(東京)に銅板レリーフ壁画「さあ、鳥たちよ...」を制作
 - ハーバード大学退任を記念した個展として、「Toshi Katayama's 30 Years at Harvard: A Retrospective of Paintings, Environmental Art Works, Graphic and Exhibition Designs」(ハーバード大学 CCVA・アメリカ)を開催
 - 港北ニュータウン(横浜)の公共広場をデザインし、スチール製の彫刻を制作
- 1997 [69歳]
 - 「三井海上千葉ニュータウン本社ビル他、一連の建築における空間造形」が「第7回 AACA 賞(日本建築美術工芸協会賞)」を受賞
- 1998 [70歳]
 - WHO 健康開発総合研究センター(神戸)の人口広場にチタン・ステンレスチール製の彫刻作品「飛翔」を制作(現存せず)
- 2000 [72歳]
 - 明治安田生命大阪梅田ビル(大阪)に花崗岩と大理石によるレリーフ壁画「life 2000」を制作(制作協力:和泉正敏)
- 2002 [74歳]
 - 宜野座村サパーファーム(沖縄)にスチール製の彫刻とレリーフ壁画を制作
- 2006 [78歳]
 - Porter Square(ケンブリッジ・アメリカ)の公共広場デザインを手がける
- 2009 [81歳]
 - 「Good Design, Good Business: Swiss Graphic Design and Advertising by Geigy, 1940-1970」(Museum für Gestaltung Zürich・チューリッヒ・スイス)に染料の色見本表紙などが展示される
- 2013 [84歳]
 - アメリカのボストン郊外の自宅で逝去



※「Announcement Card Design (Japan to Switzerland to the USA)」1966年5つ折りの白い紙に3つの国の国旗(日本の日の丸とスイスの十字とアメリカ星条旗)を切り抜き、1本の赤い糸で結んだ挨拶状

片山利弘 (かたやま・としひろ)



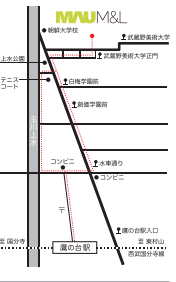
1928年大阪生まれ。造形作家。独学でデザインを学び、フリーランスのデザイナーとして活動。日本デザインセンター(1960-1963)、スイスのガイギー社(1963-1966)勤務を経て、1966年に拠点をアメリカのボストンに移し、ハーバード大学で教育に携わりながら、精力的に制作活動を続け、多岐にわたる分野で国際的に活躍。2013年逝去。

武蔵野美術大学 美術館・図書館
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
Tel.042-342-6003 <https://mauml.musabi.ac.jp>

関連イベントの開催を予定しています。
日時等は決定次第、当館webサイトにてお知らせいたします。

同時開催
・オムニスカルプチャーズ—彫刻となる場所
会期 | 2021年4月5日[月]-6月20日[日]
・膠を旅する—表現をつなぐ文化の源流
会期 | 2021年5月10日[月]-6月20日[日]

交通アクセス
・西武国分寺線「鷹の台」駅下車、徒歩18分
・JR中央線「国分寺」駅北口(4番乗り場)より西武バス「武蔵野美術大学」行き、または「小平営業所」行きに乗車、「武蔵野美術大学正門」下車(所要時間 約25分)
・JR中央線「立川」駅北口(5番乗り場)より立川バス「武蔵野美術大学」行きに乗車、「武蔵野美術大学」下車(所要時間 約25分)
※お車でのご来館がご遠慮ください。



複製掲載 | 1. 新聞広告「サンヨーラジオ」1952年/2. 内装デザイン「レストラン エトワール」1953年/3. ポスター「SILVER」1957年/4. パッケージ「NIKKOREX F」1962年頃/5. 製品カタログ「Nikon F」1961年頃/6. 製品案内「Microten® Geigy」1963-65年/7. DM「Tégretol® Geigy」1963年頃/8. カラーズ「Blue Star」1964年/9. マグネット「Poem by Four Squares-Changeable Picture」1965年頃/10. 雑誌表紙「Graphis」No.124 1966年/11. ポスター「Bauhaus, a Teaching Idea」1966年/12. マグネット「S(+M-A)」1969年/13. シルクスクリーン「G. S. D-Red」1971年/14. 詩画集「3 Notations/Rotations」1974年/15. キャンパス「Entangle on Green」1975年/16. 書籍「片山利弘作品集」1981年/17. フォトデザイン「新宿NSビル」1982年/18. カレンダー「1987年 西武美術館」1986年/19. ドローイング「Drawing Archi-Space」1985年/20. 大ホール織機「都市と自然の調和」[ソニックシティホール]1988年/21. キャンパス「三思の門」1989年/22. レリーフ彫刻「正方形へ、光と石の対話」[大原美術館本館]1991年/23. 書籍「ハーバード大学視覚芸術センター片山利弘教室」1993年/24. ポスター「片山利弘展」(ギンザ・グラフィック・ギャラリー)1994年/25. 壁画「水龍」[三井住友海上千葉ニュータウンセンター]1994年/26. キャンパス「青の源流門」1996年/27. 銅板レリーフ壁画「さあ、鳥たちよ...」[JT本社ビル]1995年/28. 公共広場デザイン「港北ニュータウン」1995年/29. レリーフ壁画「life 2000」[明治安田生命大阪梅田ビル]2000年/30. マグネット「Untitled」2000年/31. 公共広場デザイン「Porter Square」2006年

※種別、(作品名)「製品名」「書名」、[建物名]、制作年の順に記載した。

所蔵、写真提供 | 凸版印刷株式会社印刷博物館(no.1)、公益財団法人DNP文化振興財団(no.3)、日本カメラ博物館(no.4,5) 写真撮影 | 佐佐木生(no.6,7,9,10,12,14,16,18,22,23,29)、Announcement Card)、三本松淳(no.8,11,13,15,17,19-21,24-28,30)